



「協会参与」先生の影響が大きいですね。僕が高校生で水戸商の時の監督だったんですが人間を育てる、男を育てる、「男の人生出会いとロマン」。出会った子供たちを死ぬ気で育てる。それをサッカーというスポーツを通じてやることに感銘を受けましたね。そして凄いのは教える時に感情だけでなく理屈、理論、理詰めで話せるしいるんないことが出来る。彼を尊敬してない人はいないですよ。水戸商サッカー部を卒業して助川さんを嫌いな人なんて1人もいませんから。それが凄い。追いつけはしないと思うが、決してまねじゃないがそういうことをやっていきたい。「アキさんとサッカーやれてよかった」と言われるように。

「若い頃の話が出ましたが監督は選手のところどんな選手だったんですか？」

秋田 自分で言うんですけど(笑)。泥臭いセンターフォワードでしたよ。周りに言わせると中山雅史(ジュビロ磐田)みたいだったといえますね。それで中山よりもスピードはあったと言いますよ(笑)。そして監督は指導者として海外に色々行かれています。が何歳頃はいかれたのでしょうか？

秋田 最初はニジュウ……30歳ぐらいかな。

「どのような国に行かれたのですか？」

秋田 ドイツ、オランダ、イタリア、フランス、イギリス、スウェーデン……そんな感じですね。

「そのなかで衝撃を受けた国なんかありますか？」

秋田 それはもう最初ほどの国も衝撃を受けましたね。指導体制でいったらやはり凄いのはオランダのアヤックスですね。なんでアヤックスに興味をもったかと言つと何回も言っていますが我々はただたんにサッカー選手を育てているのではない。我々は人間を育てているんだというのが理念だったんです。それを僕は気に入ったんです。「俺と同じだ」と思つて。

「では、一番印象に残った出来事なんかありますか？」

秋田 イギリスで住んでいた家のおじさんとお婆さんは115キロ、130キロぐらいあった(笑)。でも、彼らが凄いと思つたのはパーミンガムという田舎で百何年その家にいるんだけど、着るものとか食べるものには無頓着なのに庭には凄い金をだす。その夫婦は俺の作った料理を「うまい、うまい」と言つて食べてましたね。